

グローバル通信

2007 vol.5

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

去る人あれば、来たる人あり。大学にとって、新学期はもっとも人々の往来があわただしい季節です。

3月には、このコースから12名の院生が修了されました。新社会人として、新しい人生の一步に入られた人もあれば、リフレッシュしてかつての職場に復帰される人たちもいます。入れかわって、12名の新院生を迎えることになりました。

今号は修了された人たち、また期待と不安の中で大学の門をくぐられた新院生のそれぞれの思いをこめたコメントを中心に特集を企画しました。

本紙もまたこの1年、新旧の人たちそれぞれの新たな可能性へのチャレンジと自己研鑽の姿を追いながら、情報交流の「ひろば」の役割を担っていくことにします。(編集部)

2名の職員を派遣 研究成果を大いに期待したい	1
『One Community, Many Voices.共に暮らそう』	1
入学おめでとう	2
修了おめでとう	3
事務局インフォメーション	4

CONTENTS



2名の職員を派遣 研究成果を大いに期待したい

中司 宏 (枚方市長)

昨年、国と地方の役割分担を見直す「地方分権改革推進法」が成立し、真の地方分権改革の実現に向けて、新たな一歩を踏み出しました。

一方、地方自治体を取り巻く状況は、少子高齢化の進展により市税収入が大幅に減少し、生産人口の減少や経済格差の広がりが懸念されるなど、依然として厳しさが続いています。加えて、団塊の世代の市民が退職の時期を迎え、高齢化が一気に加速することによって、市税収入がさらに減少する一方で、福祉をはじめとした社会保障費が増大し、より一層厳しさを増すことが予想されています。地方分権時代にふさわしい自己決定・自己責任による地域経営を進め、持続可能な地域社会を築くとともに、独自性を発揮し発展していくためには、行政だけでなく市民と協働でまちづくりに取り組み、地域社会に関わる地域コミュニティや市民団体、NPOなどが連携して、協働で公共的な課題を解決する「地域力」を高めていくことが重要です。

そのような中、貴大学の「NPO・地方行政研究コース」では、分権社会において活躍する高度専門的な人材の養成を目的とされ、学生とNPO、行政がともに学ぶことができる様々な研究・学習の機会が設けられ、地域社会の多様化するニーズに対応する人材を輩出されておられますことは誠に有意義で素晴らしいことと思います。

本市におきましても、本年度から2名の職員が貴研究コースを受講しますが、研究や様々な体験を通じて、これからのまちづくりの最重要課題である市民との協働の新たな手法を習得し、その成果を職場で大いに発揮してくれるものと期待しています。

今後も、貴大学との協定をはじめ、研修や職場運営などのあらゆる場面で、職員一人ひとりの能力の開発に積極的に取り組み、地域主権の自治体運営を支える職員の育成をめざします。



『One Community, Many Voices.共に暮らそう』

浅野 令子 (淡海ネットワークセンター(淡海文化)
振興財団) 常務理事 兼 事務局長)

2003年10月14日の国際シンポジウム『地域を拓く人材・政策開発システムを考える』は、龍谷大学の研究プロジェクト「地域人材・公共政策開発システム・オープン・リサーチ・センター」(LORC)のオープニングイベントだったと記憶しています。ドイツからはライナー・ピッチャース教授(シュバイヤー行政大学院)、イギリスからはマイク・オブライエン所長(グラウンド・ワーク)と著名海外ゲストに混じり、パネラーとして参加しました。

当時、京都をベースに地域活性化、地域情報化に取り組むNPO法人の事務局長をしていた私がどうしてパネラーのご指名を受けたのか定かではありませんが、雨が激しく降る日に海外ゲストもいらっしゃることだと着物で話のまずさをごまかしながら参加させていただきました。草の根の力を束ね、地域を元気にする事業を立ち上げられる人材を育成して欲しいとパネルでは申し添えました。

その後、LORCと密接に協力関係のある大学院、NPO・地方行政研究コースとは、現在協定を結んでいます。本コースについては、受講生の方などから時々お話を伺っており、特に、きょうとNPOセンターに深く関わっておられた玉川雄司さん(故人)ががとても楽しそうに授業や研究についてお話されていたことを、今も鮮明に思い出します。そして、昨年は、LORCの外部評価委員として、LORCの全容と進捗状況を知る機会を得、院生がふれることのできる膨大な研究資料や成果に感服いたしました。

一点申し添えるとするなら、カリキュラム作成段階や研究者編成にもっと女性の声を反映させて欲しいということです。大学で使われるのは、漢字と外来語カタカナが圧倒的に多く、どうしても観念的に「地域」や「人材」が語られることが多いのではないのでしょうか。

ひらがな言葉の紡ぎ手、地域のつなぎ役である女性の現実主義と感性を加味し、現場感覚のある人材育成をお願いしたいと思います。人が育つには時間がかかります。関係者の方々には、バランスのとれたベース配分で継続的な取り組みをされることを期待しております。

入学おめでとう

例年より早咲きの桜とともに、NPO・地方行政研究コースにも新年度がやってきました。社会人院生10名、学部卒院生1名が、学びのフィールドにあらたに加わります。理論と現場、社会人院生・学部卒院生・教員のコラボレーションが今年もさまざまに咲くでしょう。修士論文という実りにむかって、研究スタートの春です。



俄然やる気が出てきました

太平 満恵 (法学研究科)

山超え、川超え、深草の入学式に参加しました。祝辞や声援をたくさん受けて、俄然やる気が出てきました。実は、合格した後も、不安が大きく、鬱々としていたのです。それでも入学することにしたのは、人権擁護NGOで働く上で、自己研鑽を続ける必要性を常々感じていたからです。世界中で今起きている人権侵害のレポートを読む度に、私の心も傷つきます。怒りに燃え、憤り、虚しくなります。こんなに苦しいなら、知らない方が良かったのにと思ったりもします。そういうしんどさを感じながらも、今、私たち生きている世界がどういったものなのかを考察し、伝達していくべきだと思っています。そのために言語化が必要です。多くの言葉を知り、私なりの表現ができるようになりたいと思っています。

貴重な機会を企画立案の土台にしたい

木田 学 (経済学研究科)

NPO・地方行政研究コースに入学した大阪市役所の木田 学と申します。

まだ入学式を終えたばかりですが、大学院で勉強できる貴重な機会を与えていただいた職場の方々に感謝します。これからは、他市町村の職員やNPO関係者、現役学生と一緒に勉強できるので、楽しみです。一方で単位取得や論文執筆がハードなことや、仕事との両立など不安もあります。

具体的な研究内容としては、新税の可能性について研究したいと思っています。

本市は昼間市外から100万人以上が流入します。しかし流入者は、本市が提供する行政サービスの受益を享受しながら、市税を払っていないため、負担をしていません。

その課題解決のため、流入者へ課税する税制の可能性を探り、最終的に、新税の企画立案の土台として生かしたいと思います。

最後に、研究活動の時間確保のため、仕事の能率向上や精神力、体力が今まで以上に必要ですが、研究を通じ本市に貢献できるよう頑張りたいと思います。

新院生

所属研究科	名前	推薦団体名
法学研究科	1年制 岡田 真由美	枚方市役所
	1年制 栗田 豊一	滋賀県東近江市役所
	1年制 櫻井 あかね	箕面わいわい株式会社
	1年制 太平 満恵	(特活)関西NGO協議会
	1年制 中村 晋一郎	大阪市役所
	2年制 朝倉 健太	学部卒
経済学研究科	1年制 中村 紀之	枚方市役所
	1年制 木田 学	大阪市役所
	1年制 前田 考一	(特活)京都コミュニティ放送推薦
	1年制 田中 泰信	京都市役所
	1年制 西川 嘉邦	甲賀市役所

「NPO・地方行政研究コース」とはこんなところですよ。

NPO・地方行政研究コースは地方自治体や市民活動など分権社会において活躍する高度専門的な資質を有する人材を育成することを目的とした大学院修士課程のコースです。

■ 少人数による協働ゼミナール

必修科目として「NPO・地方行政研究特別演習」を開設しています。この演習は、豊かな経験と知見をもつ教授陣と学部卒業院生、そして実務で活躍する社会人院生が一同に会し、白熱した議論を交わします。こうした様々なフィールドで活躍する人々が集まることで、理論と現場をつなぐ学びの場が形成されます。

■ 地域公共政策に対応した2つの研究科の共同運営

政策形成には政治学分野だけでなく経済学や様々な知識を必要とします。法学・経済学の両分野を横断して開設されたこのコースでは法学研究科・経済学研究科で開設されている多様な科目の履修が可能になります。

■ 民・官・学による互恵的連携協定

大学と地方自治体やNPO等諸団体とが互恵的連携協定を結ぶことにより、職員のキャリア・アップに大学を活用する、地方自治体やNPO等諸団体が長期インターンシップを受け入れ実践教育の場を提供する、大学の知的資源と自治体やNPOの経験や情報を相互に提供して、それぞれの活性化・高度化に活用するなど、相互にメリットを獲得しつつ、分権社会における地域公共政策の高度化・多様化に3者が協力して取り組みます。

■ サテライト教室の設置

今年度より、遠距離から通学する院生を考慮して、深草キャンパス・瀬田キャンパス・キャンパスプラザ京都(京都駅隣)にサテライト教室を設けられ、離れたところから、他キャンパスの講義を受講することが可能になりました。今年度後期からは遠隔授業システムも導入予定です。

■ 教員から ————さらなる飛躍の機会に———



佐々木 淳 (経済学研究科教務主任)

新しくNPO・地方行政研究コースに進学された、経済学研究科の院生のみなさん、おめでとうございます。これまで、経済学研究科では、大学院水準での経済学教育、経済学を通じた専門的職業人の育成をめざして、多様なコースの展開をはかってきました。法学研究科との共同運営によるNPO・地方行政研究コースの開設(2002年4月)も、その一環で、地方自治体や市民活動など分権社会において活躍する高度専門的な資質を有する人材の育成を目的としています。社会人と大学院生という二足の草鞋を履くことには、多大なエネルギーを要しますが、経済学研究科ならではの課題研究の制度も活用して、論文をまとめ、さらなる飛躍につなげてください。みなさんのご健闘を祈ります。

修了おめでとう

修了された皆さんにコメントをいただきました。お願いしたのは、①一番感謝したい人、②一番印象に残ったこと、③先生に言いたいこと、の中から1つ選んで書いてもらうつもりでしたが、3項目すべてに答えた人もいました。お寄せいただいたそれぞれの言葉には、文章の長短にかかわらず、共通の思いが詰まっており、全文を掲載することにしました。また、コメントの最後に提出論文の表題を掲載しました。

修了生14人のコメント

法学研究科

木村 光一

②大学院への入学目標は「論文が書けるようになる」ことだった。果たして、満足のいくものが書けたかと問われれば、恥ずかしい。在学中には、学友や教員との話しはどれも刺激的で、有意義な時間に包まれる幸せを感じていた。

修論指導教員の土山希美枝さんには、ていねいな添削指導を頂いた。世話の焼けるおじさん学生だったろうに。人生の区切りの歳に、多くの出会いと切磋の機会に恵まれて、みんなに感謝している。

「地方政府の政策形成における市民の意思表出と参加」

久保 聡

②私が一番印象に残っていることは、約1年間、ある市役所の協働制度をつくる取り組みに参加させてもらったことです。月2・3回の会合や、セミナー、研修に参加させていただきました。

現在、地方自治の大きなテーマとなっている「協働」という言葉の本質的な意味を考え、現実を見て、経験することができた貴重な1年間でした。

今後の自分の仕事にこの経験を余すことなく活かしていきたいと考えています。

「高島市合併後の共同型公共空間創出に向けた協働の制度設計
—市町村合併を契機とした新しい公共空間作り—」

藤井真知子

①まず、感謝したいのは、このような機会を与えてくださった職場です。

通学時間が2時間ということから、仕事を1時間切り上げて出席していました。仕事が忙しく、残業を余儀なくされることが多い職場であり、また、選挙期間中などは、時間外、土、日の仕事についても無理を願いました。このように職場に迷惑をかけながらも、皆さんに理解をしていただいただけでなく、応援していただきました。

そして、職場の同僚からは、いろんな励ましを受けました。これは、これからの私の仕事を支えてくれる心強いものとなりました。

また、家庭では、日頃の仕事ばかりの生活のうえに、大学院に通うということになり、夫には、かなり家事を担ってもらいました。特に修士論文に集中した12月から1月にかけての応援は、感謝の一言に尽きます。

こんなにたくさんの方々を支えられていることに今は感謝しています。

②やはり、学生生活を謳歌できたことです。

まず、学制定期をもって、授業に出席することの楽しさは、なんと言ってもいいか、心地よかったです。そして、合宿、これもまた大学生活にしかできないことでした。やはり、大学院の目標である修士論文、これは、この時にしかできないものであり、書き上げたときの喜びは、大きな声でみんなに言いたかったです。「学ぶ」ことをこれほどにも感じたことはなかったですね。

③言いたいことというと、「ありがたい」です。

20数年前の大学生活とは違い、先生を身近に感じました。これは、年を重ねたことからかもしれませんが、温かく感じました。ただ、学ぶことに関しては、厳しかったと思っています。当然のことなのでしょうが、若い学生と違い、社会人ということで学ぶ感覚も鈍っていましたので、「あーん」の呼吸で理解できないことも多く、戸惑うことが多かったのも、そういう意味で厳しかったと思っています。本当は、先生方の要求されていることについていけてなかったのかもしれませんが。

「市町村合併における自治体法務の現状と課題 —甲賀市の条例整備を手がかりとして—」

藤野 正弘

①まず最初に職場のみんなにお礼を言いたいです。

勤務時間を短縮して授業に出たことはないのですが、時間終了と同時に職場を飛び出して大学に向うことが多く、またNPOは土日にイベントも多く



ゼミと重なり、その分他の人に迷惑をかけていました。これからはその分をお返しすべく、一生懸命働きます!?

次に、同じ院生仲間の皆さんに感謝。挫けそうになるときは、皆さんの頑張りを励まされました。

最後に、指導員の大矢野先生。こんなできの悪い院生でしたが、最後まで熱心にご指導いただきました。おかげさまでなんとか修了することができました。本当に感謝しています。

「企業の社会的責任(CSR)とNPOの役割 —CSRを通じたNPOと企業の新しい関係構築の可能性—」

南 かおり

①このほぼ1年間は家事もほとんど放棄していましたので、協力をしてくれた家族はもちろん、改めて学ぶ楽しさを教えてくださった先生方、本当に最後まで丁寧に論文のご指導をくださった大矢野先生、そして、十分な仕事ができなかったにもかかわらず、いつも快く送り出してくれた職場の人たちに感謝し切れないほど感謝しています。

特に論文執筆については、幾度となくじけそうになりながらなんとか修了することができたのは、授業等の連絡、情報からため息まで交換をし、励ましてもらった特に同コースの裏メールの同志のみなさんのおかげにつきます。この学びと同志の絆を途切れさせないようにしていきたいと、すでに日常の仕事等に忙殺されている毎日だからこそ実感しています。本当にみなさん一年間お世話になりありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。「外国籍・外国にルーツをもつ子どもたちをめぐる課題と地域社会で育む学びのシステムづくりの考察 —近江八幡市のワールドアミーゴクラブの活動から—」

季 珍如

※季さんは中国からの留学生で連絡が取れず、コメントは掲載できませんでした。

「中国農村地域における『新型農村合作医療制度』の施行現状とその問題点 —韓城市Z郷X村を例として—」

■教員から — 大学と現場の架け橋に —



赤池 一将 (法学研究科教務主任)

コース修了、おめでとうございます。社会人1年修了の方々、職場と研究活動の両立という難事業に挑まれ、2年修了の方々、そうした学友を励みにいっそう研究を深め、実を結ばれたことと心からお慶び申し上げます。

理論と実践の架橋をめざしたこのコースで学ばれたこと、得たことは、生きた知識と経験、それを共有する学友のつながりとなって今後も糧となるのではないのでしょうか。理論と実践、大学と現場の架け橋となる地域の人材としてご活躍されることを、心からお祈り申し上げます。

荒川 萌

- ①家族です。学費を出してもらい、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
- ②NPOコースの一授業である、先進的地域政策研究のシンポジウムを担当させていただいたことです。平成18年1月23日、「NPOと自治体との協働を考える～LEAFと西宮市の事例から～」というシンポジウムの企画担当を行いました。何もかもが初めてのまま、企画立案、企画書の作成、講師とのやりとり、当日のあいさつなどをさせていただきました。企画を実施するに至り、さまざまな先生方、院生の方々のお力添えをいただきました。皆様に支えていただき、なんとかシンポジウムを実施することができました。現在、市役所に就職し、企画担当をさせていただいております。現職においても、院生生活で学んだ経験を大いに活かしていこうと考えております。
- ③先生方には、本当に感謝しております。こんな小生に対しても、きめ細やかな御指導をしてくださり、本当にありがとうございました。きっと多大な御苦労をおかけしたと思います。NPOコースで学んだことを、今度は現職に活かしていきます。どうぞ、今度ともよろしくお願ひ申し上げます。「『日本の環境首都コンテスト』の可能性—NPOによる自治体環境政策への政策提言の一考察—」

市田 昌一

- ①職場の皆さんには配置の関係で、大変迷惑かけました。特殊な勤務体系で1年間を通じて、決まった曜日に休ませてもらうことは当初困難と思ひ、1年での修了は諦めかけていましたが、同僚の協力や支援をいただいて無事修了することができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。「防災行動計画策定における住民ネットワークと行政の役割—ソーシャル・キャピタル形成の先進事例と京都市伏見区との比較—」

金 宣吉

- ①私の人生のパートナーである丁由紀子さんです。
- ②勉強はつらい!!
- ③田中宏先生、中村尚司先生、出来の悪い弟子を励ましていただきありがとうございました。「在日コリアン無年金者訴訟の変遷と社会的役割—在日コリアン社会への反響を主軸として—」

高井啓太郎

- ①職場のみんなへ
本当に勝手にシフトを変更し、事業などもまかせっきりになり、すみませんでした。学んだことを全員で共有していきましょう!
- ②本当にこの年になり徹夜をしてまで勉強するとは思いませんでした。でもものすごく濃い1年となりました。
- ③松浦先生
どうしようもない生徒でした。でもまだまだ先生からは教わることが沢山あります!! 今後とも懲りずにご指導下さい。「『自然学校』を運営するNPO法人の人材育成と地域資源の活用～長期の展望を見据えた経営の観点から～」

平尾 剛之

- ①先生方、大学事務局の方をはじめ、感謝に順位をつけられるものではありませんが、この貴重な機会を提供いただき、修了するまでご支援いただいた協定元の方にも心から感謝しています。ありがとうございました。
- ②一年という非常に短い期間のなかで、どの経験も印象深いものでしたが、特に院生自主企画のシンポジウムができたことは貴重な経験となりました。
- ③仕事をしながら、大学に通うという状況に対して、深いご理解とご配慮をいただきました。先生方からの温かい対応に励まされ修了することができたものと感謝しています。講義もさることながら飲み会での討論も非常に楽しかったです。「持続可能なNPOの組織デザイン—インターメディアリの役割と組織評価—」

宮田 弘

- ①中村先生(先生をのぞくなら、妻)
- ②研究や勉強の方法を理解することに時間がかかったこと…
- ③ありがとうございました。「鉄道トンネル湧水の意義—京都市営地下鉄の排水について—」

事務局インフォメーション

I 2007年の授業が始まったばかりですが、2008年度の入学試験や連携協定先との懇談会などの日程についてお知らせします。

- 2008年4月入学 大学院入学試験案内
 - 一般・社会人入試(秋期)入学試験
 - 出願期間 2007年8月30日(木)～9月5日(水)
 - 試験日 2007年9月22日(土)
 - 合格発表 2007年10月5日(金)
 - 一般・社会人入試(春期)入学試験
 - 出願期間 2008年1月17日(木)～1月23日(水)
 - 試験日 2008年2月16日(土)
 - 合格発表 2008年2月22日(金)
- 2008年4月入学 NPO・地方行政研究コース推薦入学試験案内
 - 事前審査受付 2007年10月5日(金)～10月11日(木)
 - 事前審査結果発表 2007年10月26日(金)
 - ※協定先所属団体長及び本人宛に速達郵便にて通知
 - 本選考受付期間 2007年11月5日(月)～11月12日(月)

試験日	2007年11月24日(土)
合格発表	2007年12月7日(金)

- NPO・地方行政研究コース協定団体に関わる日程
 - 連携協定先との懇談会(入試説明会) 2007年7月中旬～下旬
 - 推薦入学者のための入学前ガイダンス 2008年3月上旬～中旬

II 学外での研究活動も活発に

修士論文の成果を元に3月卒業の藤野正弘さんが日本NPO学会で、また荒川萌さんが環境社会学会でそれぞれ発表されました。今後とも学外での活動を大いに期待します。

III 「地域リーダーシップ研究」「先進的地域政策研究」の前期公開講演は、嘉田由紀子・滋賀県知事はじめ、全国初の議会基本条例を制定した北海道栗山町の橋場利勝・町議会議長、「里山ねっと・あやべ」の塩見直紀さんなどを予定しています。日程は追ってご案内します。なお、昨年の講演をまとめた冊子『地域社会のリーダーたちの実践とその成果』(第4号)は7月上旬に刊行予定です。

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻5号 2007年5月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース
連絡先/教学部(法学部担当)
TEL: 075-645-7896 FAX: 075-643-9901
H P/ http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編集/大矢野修、松浦さと子、土山希美枝、丹羽拓(編集補助)
印刷/株式会社 田中プリント